

久留米入城400年記念

京町校区の見どころ知りどころ

第2回 有馬家墓所

久留米入城400年記念連載の第2回は、梅林寺の有馬家墓所を紹介いたします。前回取り上げた国の重要文化財「有馬家霊屋（たまや）五棟」を含め、「久留米藩主有馬家墓所」の全域が今年、国の史跡に指定されます。こうした大名家墓所の2重指定は、全国で2例目となります。

今回ゲストの神保さん（久留米市文化財保護課）は、20年余り埋蔵文化財の発掘調査に携わり、現在は史跡や歴史的建造物など幅広く文化財を担当しています。

Q. 有馬家墓所とは？

（神保） 江戸時代に久留米藩21万石を治めた大名・有馬家の菩提を弔い、初代藩主有馬豊氏（とよゆじ）の父・則頼（のりより）から10代藩主頼永（よりとよ）まで、明治維新を迎える前に亡くなった歴代藩主を祀る墓所です。

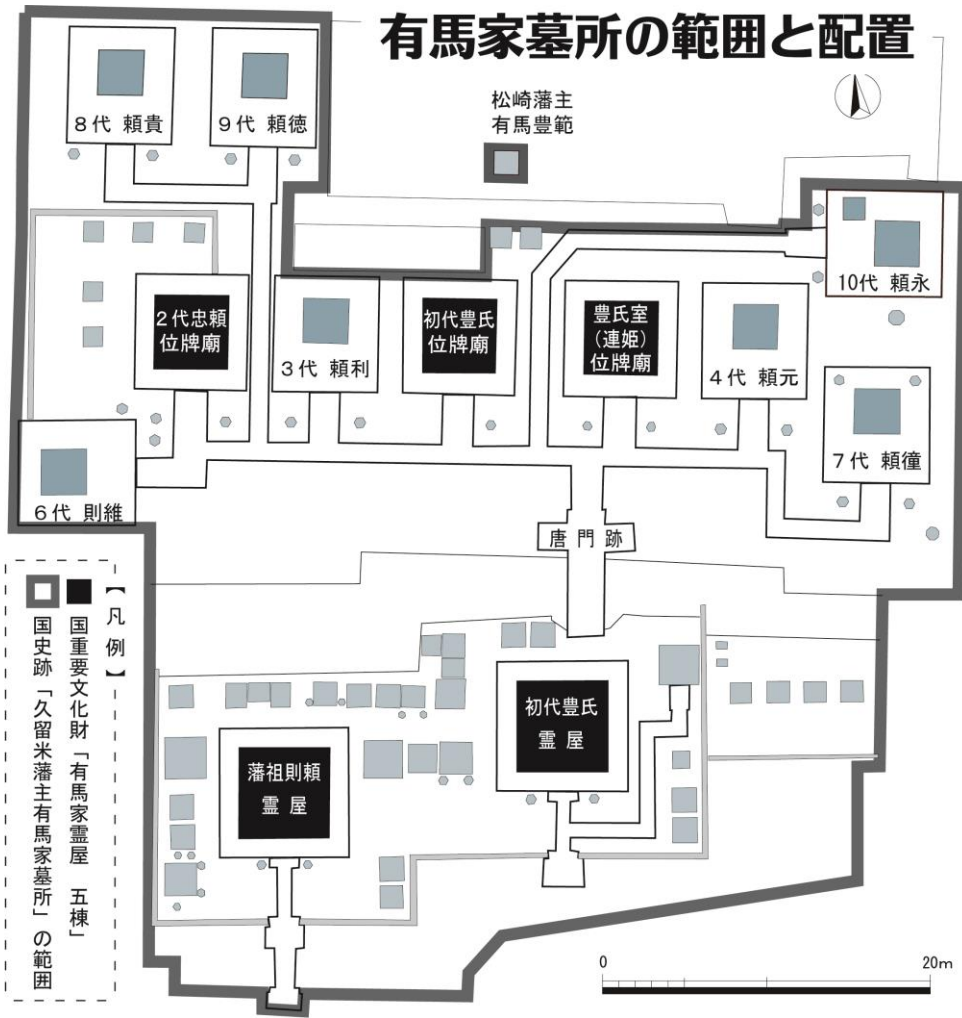
初代豊氏、2代忠頼（ただより）、7代頼僮（よりゆき）、10代頼永が埋葬され、その上に墓塔が建てられています。江戸で死去し、祥雲寺（東京都港区）に埋葬された藩主についても、供養塔が建てられます。歴代藩主を揃って祀る事例は、全国的に

希少です。他に、藩主の子息や、殉死（じゅんし）した家臣の墓もあります。



《三重石塔》

有馬家墓所の範囲と配置



【凡例】
 ■ 国重要文化財「有馬家霊屋 五棟」
 □ 国史跡「久留米藩主有馬家墓所」の範囲

Q. 墓所には建物と石塔があります。見どころ知りどころは？
 （神保） 2代忠頼までは、木造の霊屋が建立されます。3代頼利（よりとし）以降は霊屋を設けず、三重石塔が建てられました。ただし、藩主在位1年にも満たない5代頼旨（よりむね）については、春林院霊屋のなかに五輪塔が安置されています。

三重石塔は墓塔も供養塔も、藩主という立場に相応しく、高さ約4メートルと巨大に造られています。また、屋根の反りなどを見比べても、ほぼ同じ形状をしています。3代頼利が死去した際に、藩主のお墓の形が確立し、幕末にいたるまで踏襲されたことがうかがえます。

「久留米藩主有馬家墓所」は、江戸時代の状態が良好に残り、移り変わりが分かることが、たいへん貴重であるとして、国の史跡に指定されることになりました。

* 歴史文化かおる京町校区に、また1つ新たな指定文化財が誕生します。（聞き手 市文化財保護課 穴井）